

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル ② 支え合い助け合える地域づくりの取組

現状と課題

本市の令和 5 年度高齢化率は 32.2%であり、総人口の減少、後期高齢者人口の増加により高齢化率は年々上昇している。世帯の状況をみると、単身世帯・夫婦のみの世帯など高齢者だけの世帯が増加しており、見守りや支援を必要とする高齢者が増加している。

そのため、多様な主体が連携・協力し、生活支援サービス等の充実を図るとともに、地域で高齢者を見守り支援する体制の強化が必要である。高齢化の進展に伴い、高齢者による高齢者の見守りなど高齢者が支える側になることもまた求められている。

また、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、現在治療中、又は後遺症のある病気がある方は 82.5%となっており、医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供する体制づくりとともに、地域課題を把握・検討し施策に反映させるため、地域ケア会議を推進する。

第 9 期における具体的な取組

- ・ 高齢者を見守る体制づくり
- ・ 生活支援サービスの体制整備
- ・ 在宅医療・介護連携の推進
- ・ 地域ケア会議の推進

目標（事業内容、指標等）

- ・ 高齢者を見守る体制づくり

地域での日常のゆるやかな見守りや、行方不明高齢者の早期発見・保護を目的とした、高齢者等見守り・SOSネットワーク「見守ってねっと」事業の取組みを充実し、見守りサポーターを増加させる。

また、一人暮らし高齢者等への声かけ・見守り活動を行う生活支援サポーターを増加させる。

さらに、災害時等における避難行動に支援が必要な高齢者を把握し、避難行動要支援者名簿や個別計画の作成に努め、掲載者の同意を得て関係者と共有し平常時からの支援につなげる。

年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
見守りサポーター 登録人数（人）	310	330	350

年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
生活支援サポーター数（人）	26	28	30

・生活支援サービスの体制整備

生活支援サービスの体制整備に向け、「生活支援等サービス協議体」を年 3 回開催する。

・在宅医療・介護連携の推進

関係者の顔の見える関係づくりにより、現場でのスムーズな連携を促進し、高齢者一人ひとりの状態に応じた切れ目のないサービス提供を行うため、在宅医療・介護連携研修会を年 2 回開催する。

・地域ケア会議の推進

地域ケア個別会議を開催し、ケアマネジメント力の向上や関係機関とのネットワーク構築及び地域課題の把握を行う。

地域包括ケア推進会議において、地域課題について検討し必要な社会資源の開発や施策の充実につなげる。

年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
地域ケア個別会議開催回数（回）	7	8	9

目標の評価方法

● 時点

☐ 中間見直しあり

☒ 実績評価のみ

● 評価の方法

・見守りサポーター登録人数、生活支援サポーター数、個別計画作成者率（個別計画作成者数/名簿対象者数）

・生活支援等サービス協議体開催回数

・在宅医療・介護連携研修会開催回数

・地域ケア個別会議開催回数、地域包括ケア推進会議開催回数